海外展開を強化

国内は新規事業育成

愛知県内の電機・情報通信産業は高まる海外市場の需要に対応すべく、現地への展開を強化している。また、国内市場で新規事業の育成に乗り出す企業も相次ぐ。一方、自動車産業の集積地である愛知県では、同産業とつながりの深い情報通信（ＩＴ）各社が自動車の電子化に対応した研究開発の動きを加速。各社はビジネスチャンスの取り込みに余念がない。

㊨マスプロ電工が国内での販売代理権を得て販売する米コダックのアクションカメラ「SP360」
㊧北川工業の物流センターに並ぶフェライトコア

電機・情報通信

アジアで生産増強
中東企業と提携も

アイホンは、ベトナムでインターホンを増産する。2015年3月までに、ビンズオン省にある既存工場の従業員を現在比2倍の200人に増やし、3割程度にとどまってきた同工場の稼働率を高める。ベトナム工場での増産などにより、16年3月期に海外生産比率50%（14年3月期は38・7%）を目指す。ベトナム工場は11年に、日本とタイに続く3カ国目の生産拠点として設置。比較的低価格な製品を主体に生産している。将来は工場敷地内のスペースを使い、建屋の増築や新築も視野に入れる。

パナソニックデバイスSUNXは、国内外で工場自動化のニーズが高まっているとして、日本と中国の工場でセンサー類などの開発・生産体制を増強する。15年秋までに兵庫県の子会社に研究開発棟を新設するほか、中国江蘇省の子会社には第3工場を建設する。日本国内は人手不足で、海外は人件費の高騰で自動化ニーズが高まっていると判断し、拠点拡充で需要を取り込む。

機器間通信（M2M）用モジュールなどを手がけるサン電子も、海外事業を強化する。工場や化学プラント向けなどにM2Mシステムを手がけるイスラエルのバックソフトと資本業務提携した。約1億8000万円をサン電子が出資し、バックソフト株の20・7%を取得。提携により、サン電子の通信モジュールにバックソフトのシステムを組み合わせて提案し、M2M事業の拡大を図る。

アジアで販売網を強化するのは、電子部品商社のミタチ産業。15年春をめどに、シンガポールまたはマレーシアに電子部品の販売会社を新設する。

日系音響機器メーカーの現地工場向けに部品を販売する拠点とするほか、EMS（電子機器製造受託サービス）拠点としても活用する方針。

チャンス逃さず 攻勢続く

環境・エネ関連開拓
米製品の独占販売着手

一方、国内で新事業の開拓を模索する企業も相次ぐ。電子部品製造の北川工業は、環境・エネルギー関連市場の開拓を強化する。専門の営業部門を設けて受注拡大を急ぎ、既存の電機・電子部品や自動車向け部品に続く事業の柱として育成する。

同社はこれまで成長分野として自動車向け部品を掲げ、14年4月には総額13億円を投じ、愛知県春日井市内に新工場と「EMC（電磁両立性）センター」を新設した。今後は、自動車向けに続き、環境・エネルギー向けでも需要開拓を急ぎ、事業基盤を拡大する考えだ。

テレビ受信機器大手のマスプロ電工（愛知県日進市）はデジタルカメラ市場に参入。米コダックブランドのデジタルカメラとムービーカメラについて、製造・販売元の米JKイメージングと日本国内総代理店契約を締結した。今後は日本国内で独占的に販売する。

第1弾として水平方向に360度の全方位を撮影できるカメラを発売。自転車の前面などに装着し、臨場感のある動画などを撮影できる。

今後は、ミラーレス一眼カメラなども投入する。

ITと車 深いつながり

カーナビなど次世代対応

愛知県内に本社を置くIT企業が自動運転車関連技術の開発を急いでいる。アイサンテクノロジーは車線を認識できるカーナビゲーション技術を開発。萩原電気はクラウド経由で運転を制御できるシステムを試作し、車メーカーなどに提案。愛知県はトヨタ自動車の〝お膝元〟で、IT企業は自動車産業とのつながりが深い。各社は電子制御が多用される次世代の自動車づくりに対応し、開発にしのぎを削る。

アイサンテクノロジーは衛星測位利用推進センター（SPAC）などと共同で、自動運転車の車線変更に必要な高精度なカーナビ技術を実用化する。車に3次元計測装置を取り付けた専用システムを使って道路を計測し、車線認識の基礎情報となる中央分離帯や車線、横断歩道などの白線情報を抽出。これに準天頂衛星「みちびき」の測位技術を組み合わせる。

現行のカーナビは、数〝メートル〟の誤差が生じることがあるが、アイサンの技術は誤差を数〝センチメートル〟に抑えられる。実証実験では、右・左折に備えた事前の車線変更案内や、設定と異なる車線に車両が移った際に、元の車線に戻るよう促す案内などが正しく動作することを確認した。

萩原電気はクラウド型の自動車制御システムを試作する。スマートフォンなどから車の利用予約をすると、駐車場にある車に動作指令を出して所定の場所に配車。カーナビ情報とアクセルやハンドル操作といった制御に関する指令を、クラウド経由で車に送信する。自動運転車の本格普及は2020年代とみられているが、同社幹部は「今から技術開発に取り組まないと間に合わない」と開発を急ぐ。

車外と通信する次世代自動車にとって、大きな課題は車の各部品に組み込まれたソフトウエアの脆弱（ぜいじゃく）性だ。ヴィッツ（名古屋市中区）は15年春をめどに車の電子制御ユニット（ECU）向けセキュリティーシステムを外販する。同社は今夏、アイシン精機から10・7%の出資を受けた。両社は人材交流や研究開発プロジェクトを通じ、自動車向けソフトを開発する。

次世代自動車をめぐる開発では、全体の車載システム構築は車メーカーや大手電機メーカーを含むティア1（一次下請け）が多くを担当するが、関連システムは膨大で、中堅・中小企業にも商機が訪れている格好だ。今後も、IT企業と自動車関連企業が連携した技術開発は活発になりそうだ。

アイサンテクノロジーが実施した車線認識走行システムの実験

シーキューブ・グループは
「すごい会社」を目指しています。
私たちは、みなさまから
「シーキューブ・グループってすごい」
と言われる会社を目指し
全従業員一丸となって取組んでおります。
お客様
株主様
取引先
シーキューブ・グループってすごい
地域社会
従業員
C-CUBE
電気通信設備
情報通信システム・ネットワーク
人と技術と感動通信
シーキューブ株式会社
〒460-0018 名古屋市中区門前町 1番51号
TEL 052-332-8000　URL http://www.c-cube-g.co.jp

感動へつなげる、ICT
NDS
NDS株式会社
モバイルネットワーク
ケーブルネットワーク
モバイル機器評価
分譲住宅
ITS ETC
ホームソリューション
オフィスソリューション
システムソリューション
建物内電気設備
太陽光発電
介護システム販売
オムニビート
VOD
iNFO VISION
本社／〒460-0012 名古屋市中区千代田二丁目15番18号 TEL052-263-5011 www.nds-g.co.jp

Want.
地球環境を守りたい。
その想いに応える技術がほしい。
NAS®電池
大容量電力貯蔵システム
世界で初めて実用化に成功。
再生可能エネルギーの安定
供給に役立つ技術です。
負極にナトリウム、正極に硫黄、両極を隔てる電解質にファインセラミックス（右）を用いたNAS電池の単電池（左）
それは、インド洋に浮かぶ
世界遺産の島、レユニオンでも。
サントローズ風力発電所
それは、ディーゼル車が
広く普及しているヨーロッパでも。
DPF
ディーゼル車用PM除去フィルター
粒子状物質（PM）を最大99%
除去。ディーゼル車の排ガスを
クリーンにする技術です。
セラミックスと、つぎは何しよう。
NGK 日本ガイシ

やってみよう ニットクの挑戦を。
●無鉛圧電セラミックス
身近な使用例
スピーカー
超音波診断装置
カメラレンズの自動焦点モーター
●水素漏れ検知センサ
水素漏れ検知センサ
検知素子
燃料電池車
●SOFCスタック
スタック
発電セル
燃料電池システム
セラミックスで、
未来を支える。
ニットクの挑戦 検索
NGK スパークプラグ　NTK ニューセラミック
日本特殊陶業
〒467-8525 名古屋市瑞穂区高辻町14-18 http://www.ngkntk.co.jp